

諏訪（すわ）神社と諏訪山公園 諏訪山町

●「諏訪山町（すわやまちょう）」の由来



諏訪神社

諏訪山は標高 180m で、山に諏訪神社が祀られているところから名付けられた。諏訪神社は、諏訪明神（みょうじん）（健御名方大神<たけみみかたのおおかみ>・比売神<ひめかみ>）を祭神とし、社伝によれば、16 代天皇仁徳天皇の皇后・八田（やた）皇女の離宮鎮護の神として祀られたのが最初という。現在の社殿は 1924（大正 13）年に改築されたもの。このあたりはかつて、中宮村と称したが、これは諏訪神社が長田神社と生田神社の間に位置したとか、近くにある四宮神社が八宮の中宮だということから付けられたなど、諸説あるが、確かなことはわからない。いずれにしても、諏訪神社は旧中宮村の氏神であった。なお、「明和五年戊午正月元旦」（明和 5 年 = 1769 年）の銘がある石の鳥居が、社殿正面階段下にある。また、俳人它谷の「紀の海の阿波へ流れる月夜かな」の句碑が社殿の横にあり、ここ諏訪山から南海の展望が素晴らしいことを伝えてくれている。

さて、諏訪山は江戸時代、中宮村はじめ四ヶ村の共有地であったが、後に官地となった。1873（明治 6）年には遊覧地となり、諏訪神社の境内 3000 坪を公園とした。公園の片隅に 1903（明治 36）年 6 月 7 日に建てられた「諏訪山遊園」の碑が、今でもそのことを偲ばせてくれている。また、山の麓にはイギリス人が発見した温泉（炭酸泉）が湧き、「諏訪山温泉」として親しまれ、「飲めば胃を治し、湯に浴すれば万病に効く」と伝えられた。さらに、1937（昭和 12）年この地に市立動物園を開園し、現在それは王子動物園に受け継がれている。諏訪山の動物園の跡地は現在、諏訪山「子供の園」として、児童公園になっている。

出典：「神戸歴史トリップ」道谷 卓 著

諏訪（すわ）神社と諏訪山公園 諏訪山町



諏訪山遊園の碑



子供の園（動物園跡跡）

◆金星観測記念碑、海軍営の碑（諏訪山町） E-18（67）

1874（明治7）年にこの地諏訪山で、ヤンセン率いるフランスの観測隊が金星の観測を行ったことを記念して建てられた石碑。この時、日本のマッチ工業の開発者清水誠がこの観測に従っているが、彼の名前はこの碑に刻まれている。諏訪山の展望台を金星台と呼ぶのはこの記念碑が建っているからである。すぐ北にある再度ドライブウェイの展望台にヴィーナス・ブリッジの名が付けられているが、このヴィーナス（Venus）とは金星のことである。

なお、この金星観測記念碑の山側に「海軍営」の碑がある。これは勝海舟が将軍家茂の神戸上陸を記念して建てたもので、もともと海軍操練所の地に建てられていたが、1915（大正4）年に現在の場所に移された。



金星観測記念碑

出典：「神戸歴史トリップ」道谷 卓 著

諏訪（すわ）神社と諏訪山公園 諏訪山町



它谷の句碑



海軍宮の碑

場所：神戸市中央区諏訪山町 5-1